

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）事後評価結果

大学名	○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京
整理番号	3
事業名	ASEAN 発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)	
S	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
(コメント)	
<p>本プログラムは、東京農工大学、茨城大学、首都大学東京の3大学がそれぞれの強みを活かしコンソーシアムを構築して、ASEAN における開発・成長に向け自然と人間社会の共存を図り環境に配慮できるグローバル人材を育成することを目的として実施されたものである。</p> <p>地域サステナビリティや環境志向技術革新工学、食料技術など多岐に渡る分野において、3大学が協働で実施する共通教育と各大学の専門性を活かした専門教育の双方を織り交ぜた構成であり、相手大学からのニーズが高い実習型・研究型の授業を中心とするカリキュラムが提供されている。また、3大学間で単位互換が可能な相互乗入科目の開講により受入学生の履修の幅を持たせるなど、プログラムの付加価値を高めている。このような魅力的なプログラムにおいて、当初の事業計画から交流する相手大学数を大幅に増やした上で、毎年度の交流学生数の実績が派遣・受入ともに目標を上回った点は高く評価できる。さらに、留学前後に渡る学修支援に加えて、日本文化の体験学修や中小企業の事例から学ぶワークショップ等を共通科目として実施するとともに、受入学生と日本人学生が共に学び助け合うバディ制度やサポートクラブが組織され、活発に活動が行われている。この他にも、学生による主体的活動として文化体験イベントも実施されており、派遣・受入学生ともに学業や研究能力の向上のみならず、文化背景が異なる学生と協働する力や、ASEAN における諸課題への解決意欲の向上など、数的目標の達成に限らず、質的目標についても成果を挙げている。</p> <p>一方で、国内連携3大学がそれぞれの特長を取り入れながら統合的運営を図ることや、外部評価の充実等によって、引き続きプログラムを改善し発展させていくことを期待する。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質の保証を伴う発展的な事業展開によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことが期待される。</p>	